

新型コロナウイルス感染症拡大に歯止めがかからない。連日、全国で2万人以上の新規感染者が発生し、自宅療養者は9万人を超えている。特に首都圏では、多くの方が自宅療養を強いられている。病状が急変し、自宅で亡くなる方も増加している。もはや医療崩壊の状態である。なぜ、このような事態になったのか、私たちはどうすればいいのか。

◆ ◆ ◆
 感染がここまで広がった最大の原因は、インド由来のデルタ株の強い感染力にある。水ぼうそうに匹敵するとも言われ、重症化率も高い。感染拡大を防ぐには、少しでも早くワクチン接種を広めることだろう。同時に必要なのは、人の流れの抑制である。政府が強い意志を持って国民にメッセージを出し、強制力を伴う政策を打ち出すことが必要だ。

◆ ◆ ◆
 当然ながら、大規模な催しは中止するべきである。三重県で予定されていた国民体育大会を中止したのは賢明であろう。開幕した東京パラリンピックも中止が望ましかった。少なくとも、子どもたちの観戦はやめるべきだと思う。

◆ ◆ ◆
 宮城県内では25日までに、ほとんどの小中学校が授業を再開した。小中学校は思い切って、休校にするべきである。学習機会を奪うという指摘もあるが、今は子どもたちの健康を最優先で考えなければならぬ。授業を続けられれば、

自分守る行動 徹底して

広がるデルタ株感染

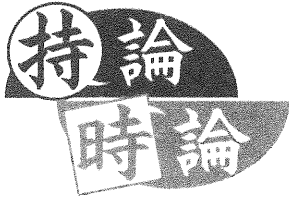
学校内で子どもたちが感染し、各家庭へと広がる。それだけではなく、家族に医療従事者がいれば、濃厚接触者となって治療行為に当たれなくなり、医療崩壊に拍車を掛ける恐れもある。

◆ ◆ ◆
 以上の指摘を実行すれば、感染の危険性は低下する。だが、デルタ株の感染力は強い。2回のワクチン接種後でも陽性となる「ブレイクスルー感染」も報告されている。常に基本的な感染防止策を取ることで、私たちは自分で自分を守らなければならない。外出を控え、不織布のマスクを鼻まできちんと着用する。そして手洗いを励行する。大声での会話は控え、人混みを避けることだ。

◆ ◆ ◆
 宮城県の新型コロナウイルス対策の特長は、充実したホテル療養にある。16日に150床増やして1000床となった。だが、まだまだ増やす必要がある。現在、県の確保病床使用率、人口10万人当たりの療養者数と直近1週間の陽性者数などの指標が、政府分科会が示す「ステージ4」（爆発的感染拡大）に相当している。自宅療養者は急増しており、医療体制は逼迫しているのだ。

◆ ◆ ◆
 われわれ医療従事者は、人の流れも抑制できない政府に対して、強い不信感と不満を持っている。しかし、今はそれを横に置き、目の前の検査や治療に全力を尽くしている。県医師会は23日、県医療緊急事態宣言を会員向けに発出し、災害級の事態に対するさらなる協力を要請した。

◆ ◆ ◆
 皆さんに訴えたい。これ以上感染者を増やさないため、どうか自分の身を自分で守る行動をお願いしたい。私たち医療従事者も、今まで以上に全力で新型コロナウイルスと闘う覚悟である。



宮城県医師会会長

佐藤 和宏

(69歳・仙台市青葉区)